

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



田中 輝未 水産部門（水産土木）

勤務先：株式会社アルファ水工コンサルタンツ

私は平成2年3月、バブル経済の真っただ中に大学を卒業し、金融業界（都市銀行）で3年間ほど営業職として勤務しました。余談ですが、簿記の資格を持ち、お札を扇形に開くことができる技術士には他に会ったことがありません。

その後、縁あって現在の勤務先に勤めることとなり、技術部門で漁港や漁村の計画立案を主に担当してきました。現在は、企画部にて新規業務の提案を発注者等に行う、いわば技術営業として北海道中を飛び回っています。技術の世界に転職したつもりだったのですが、前職の営業職での経験も活かす結果となり、つくづく人生、無駄はないものだと実感しています。

北海道内の漁村を回っていて思う事は、漁港や漁村には、「まだまだやらないと行けないことがたくさんある！」という事です。漁港は既に十分整備されていて、これ以上整備する必要はない、なんていう発言を聞くこともあります。しかし、そこで働く漁業者の就労環境はどうなっているのか、また漁獲物の衛生状態はどうなっているのか、まだまだ問題は多いのです。ただ施設の量が以前に比べ少しましになった状態に過ぎません。

そんな漁港や漁村の問題を解決し、浜で働く皆さんが元気になるのに必要な技術をポケット一杯につめて歩いていきたいと思います。



次号は、阿部島直哉さん（水産部門）



岩井 健治 建設部門（都市及び地方計画）

勤務先：北海道室蘭土木現業所

私の勤務する室蘭土木現業所洞爺出張所は、有珠山や洞爺湖温泉など観光で名高い西胆振の洞爺湖町（旧虻田町）にあります。職場は道路・河川・砂防・漁港に構成されており、全ての係が有珠山関連の事業を担当しています。

有珠山は、これまでに2000年を含め8回の噴火が発生しており、住民の生活や地域経済に大きな影響を与えてきました。2000年噴火の痕跡を残した「噴火遺構」は、その被害の大きさを今も感じることができます。一方で、観光資源やエネルギーなど、地域に様々な恵を提供しており、火山と地域社会の共生が当地における課題になっています。

私の担当している道路は2000年噴火の復興対策を終え、現在は、将来の噴火時の減災に着目した社会基盤について、地域との協働の下検討を始めています。その中で、噴火体験した住民や役場職員を会したワークショップにおいては、噴火時の避難行動、避難時の苦労、復旧までの生活、また地域に必要な社会基盤など、貴重な体験談や意見をいただいています。この議論の成果が、将来実を結ぶことを目標に日々がんばっています。

私は、入庁してから大半を道立の広域公園に関わり、レクリエーションの場の提供を視点に各地域でワークショップを体験してきました。しかし昨今では、社会基盤のハード分野にも住民参加が浸透し始め、地域との対話の重要性を改めて感じています。



次号は、木村 篤さん（建設部門）